

## 平成 28 年度総合教育会議議事録

1. 日 時 平成 28 年 11 月 9 日(水)
2. 場 所 豊浦町中央公民館 大会議室
3. 開 会 午後 3 時 00 分
4. 閉 会 午後 4 時 25 分
5. 出席者 豊浦町長 村井 洋一  
豊浦町教育委員会教育長 佐々木浩治  
豊浦町教育委員会教育委員 本所 忠夫  
豊浦町教育委員会教育委員 山下 圭一  
豊浦町教育委員会教育委員 相川 里美  
豊浦町教育委員会生涯学習課長 竹林 善人  
豊浦町教育委員会学校教育係長 日下 茂  
豊浦町教育委員会社会教育係長 堀 克吉  
豊浦町教育委員会社会教育主査 ニツ森博幸  
豊浦町役場総務課庶務係長 宮崎 優亮
6. 議 事 (1) 豊浦町中央公民館の今後について  
(2) その他  
平成 28 年度の全国学力状況調査の結果について

竹林生涯学習課長	平成 28 年度の総合教育会議を開催いたします。まず初めに町長よりご挨拶をお願いいたします。
村井町長	<p>みなさん、ご苦労さまでございます。</p> <p>寒い中出席いただきまして、ありがとうございます。</p> <p>昨今、登下校中の子供たちの列に車が突っ込む等の悲惨な事故が相次いでいます。これから冬期間を迎え、いつ豊浦でこのような事故が起こるかわからない状況でございます。これからも教育委員会一丸となって、子供たちの安全確保に努めていただきたいと思います。</p> <p>今日は、議題に沿って「中央公民館のあり方」を教育委員さんの研修報告などから町としても今後について考えていきたいと思っております。</p> <p>この中央公民館については、以前長寿命化を図ることで診断を行いました。なかなか使い勝手が悪くなるという現状ですので、今日改めて皆さんからのご意見をいただきたいと思っておりますのでよろしくをお願いいたします。</p> <p>以上でございます。</p>
竹林生涯学習課長	<p>ありがとうございます。</p> <p>本会議の議事進行については、町長が行うこととなっておりますので、よろしくをお願いいたします。</p>
村井町長	では、今申し上げましたが、中央公民館の今後について、3か所の視察研修報告を教育長よりお願いいたします。
佐々木教育長	<p>はい。では、私から視察研修の報告をさせていただきます。</p> <p>この公民館の改築計画につきまして、9月28日から3日間、教育委員の道外視察研修を行いました。お手元の資料に沿って説明させていただきます。</p> <p>視察場所は3カ所ございまして、いずれも滋賀県でございます。愛荘町の愛知川図書館、近江八幡市の馬淵コミュニティセンター、そして竜王町公民館となっております。3か所につきましては、教育委員4名、事務局職員1名、計5名で行ってまいりました。</p> <p>愛知川図書館から説明いたします。愛荘町は、平成18年2月に奏荘町と愛知川町が合併し、4月時点で、人口19,758人となっております。町の中心である愛知川地区は、江戸時代中山道の宿場町として栄えた愛知川地区があったところとして知られてます。したがって、愛荘町には町立図書館が2館あるという、読書に対して、大変力を入れている町であります。愛知川図書館は平成12年12月12日に開館した建物で、郷土工芸品である「びんてまり」を展示している</p>

「びんてまり館」が併設されており、建築面積は約 3,200 平米であります。この総事業費は、約 14 億 9,000 万、現在の収容冊数は 25 万冊。この愛知川図書館がなぜ有名であるかといいますと、平成 19 年に「ライブラリー・オブ・ザ・イヤー 2007」という日本一の図書館を決めるコンクールでその年の大賞を獲りました。ということで、名実ともに日本一の図書館になっています。この賞は、ある程度大きな規模の県立図書館クラスの図書館がいただいていた賞で町立図書館が受賞するというのは、初めてのことでした。この愛知川図書館が充実したものになるには、まちづくりに図書館が欠かせないという当時の町長の考えから、開館の準備にあたり開館時の館長は、九州にいた図書館のエキスパートを引き抜いてきたそうです。その後も館長を続けている方は、全国各地で図書館づくりに名をあげている方を連れてきて、館長にしている状況であります。私たちに説明してくれた館長も、北海道出身で来られる前は、仙台で図書館関係の仕事をしていました。年間の図書館経費については、聞いてきていませんでしたけれど、町立の 2 館体制で図書館の正規職員が 9 名、内 8 名が図書館司書、そして嘱託職員 8 名、図書館だけで 17 名の職員で運営をしている状況でございます。これだけでも相当な人件費がかかっていると思いましたが、このような中、2 館の運営のほか、町内にある学校図書館の方にも司書を派遣して読書活動にも力を入れている状況です。図書の利用については、年間延べ 16 万人貸出率は町民 1 人当たり年 16 冊、土日の貸し出し数は約 3,000 冊。これだけ毎年経費をかけていますので、私の疑問としては、議会から何か言われていないのかなと思いましたが、平成 21 年に「愛荘町町中読書の宣言」が議会で採択されたように、図書館開設時から議会の後押しがあったということでありました。この図書館の特色は、図書館全体が子どもの本のコーナー、一般書のコーナー、地域行政のコーナーに分かれているほか、閲覧用として、読書コーナー、畳のコーナー、ソファコーナー等図書館を利用する方々が利用しやすい施設づくりがなされていたと思えました。特に関心を持ったのが地域・行政コーナーで、図書館の使命でもある地域に関する資料が充実している。また町内会ごとに作成している広報も保存され、消えゆく「まちの風景」を発信するために、「まちのこしカード」や「愛知川歴史写真館」をつくり自然や歴史、生活の記録をデジタル化して保存しておりました。また新聞をとっていない方のためにチラシを図書館においている。本当に利用者のことを考えた図書館づくりになっていたと感じました。

次に訪問したのは、近江八幡市の馬淵コミュニティセンターです。近江八幡市は、平成 22 年に近江八幡市と安土町が合併して誕生し、平成 26 年 4 月の人口は、約 8 万人です。近江八幡市は、陸上と琵琶湖がありますので、湖上の交通の要所として知られ、安土城をはじめ多くの城が築かれました。視察したコミュニティセンターは、平成 26 年 4 月に開館した施設であり、建築工事費は、3 億 2,550 万用地取得費や造成工事請負費、建設設計委託費等の総額は、4 億 2,800 万です。この建物の用途としては、コミュニティセンターと消防団詰所等からなっており、それぞれの面積は、コミュニティセンター部分が約 1,100 平米、消防団詰所が約 160 平米であります。なお、建設に当たってはプロポーザル提案方式を採用しております。この近江八幡市は平成 22 年 3 月から、それぞれ地域にある公民館を防災拠点施設としての機能持ち合わせる防災コミュニティセンターとして、順次整備しております。この近江八幡市には、10 の学区があり、それぞれの学区に公民館があるんですね。それをすべて平成 22 年 3 月からは、防災コミュニティセンターとして整備していくことになっております。私たちが視察した馬淵コミュニティセンターは市内で 3 番目に建てられた施設で、ちょうど私たちが視察に行ったときには、6 番目の施設を建設中でした。馬淵コミュニティセンターは、災害が発生した際、主に 1 階を防災拠点施設として使用し、ボランティアの受け入れ、情報収集及び発信の場として、また 2 階を避難所として使用する作りになっております。避難者の受け入れについては、地区住民 1 割である 350 人を想定しています。また隣には、馬淵小学校があり、その小学校と屋根付廊下で接続されているので、一体となつての使用も考えている。その他にも、災害発生時の飲料水の確保として、上水道の受水槽を施設に設けられている。また生活用水の補助水源としての井戸設備についても、災害時には、簡易浄化設備により、飲用水として使用可能となっております。下水道が使用できない場合は、トイレ汚水及び生活排水を貯めておく、汚水貯留槽を設置し、マンホールトイレも 3 か所設置されています。それから非常用発電機を設置して、災害時には防災対策室として機能する 1 階会議室の電源や生活上必要な照明、コンセント電源の確保を行っています。この建物の特徴的なものとしては、写真で見ていただきたいですが、施設の南側と東側に屋外作業ができるように屋根の部分を作り、雨天時の物資の運搬や炊き出し作業が容易にできるような場所を確保しています。学習機能としては、1 階に事務室、地域交流室、調理室、研修室の AB があり、どちらも和室でした。2 階は、3 分割できる大ホールのほか、会議室

が2つ、研修室が2つあり、和室となっております。エレベーターは、救護者を搬入するためのストレッチャーが使用できるよう工夫がありました。また1階には、避難者の衛生面で洗濯室、更衣室の中には、車いすでも使用が可能なシャワー設備が設置されておりました。この施設には、広い駐車場がとられていまして、130台分の車が停めることができます。そこでは、日常、防災訓練とか消防訓練が行われています。

3か所目の視察施設は、竜王町の公民館であります。竜王町の人口は、平成26年4月時点で、約1万3,200人竜王町の基幹産業は農業で、総面積の30%は水田で、米の産地であります。その他にも、果樹の栽培が盛んで、近江牛の生産地としても知られています。視察した竜王町公民館は、昭和50年に開館しています。ですから41年経過しております。この間3回改修工事が行われていて、最近では平成23年3月に耐震工事を行い、大改修を終え、リニューアルオープンしております。建物の概要については、鉄筋コンクリート造の3階建、延べ床面積は3,600平米、各階の構成については、1階には、ホール、交流フロア、キッズランド、会議室、和室、調理室、スタッフルーム、談話室、2階には、まちづくりフロア、工作室、研修室、郷土資料室、3階には、運動療法室、音楽室、学習室、特別支援の対応ができるようになっておりました。建物特徴としては、平成23年の改修に合わせて、隣接地に大型商業施設ができていました。ですから、それが出来たことにより、その利用者を公民館に呼び寄せて、地域の人々が気軽に利用できる施設改修を行っていました。その商業施設と公民館の屋根つき廊下で繋いでいて、すぐ大きなフロアがあって、そこで交流したり、スーパーで買って来たものを食べたりできるようになっています。私たちが視察に伺った時にも、どちらかというと世代の若いお母さんたちがそこでお話をしていました。2階には、郷土資料室というのがあったのですが、竜王町には数多くの遺跡の発掘があり、それらを保管し、研究する施設となっております。また職員の方に、それらを研究する学芸員もおりました。その他にも公民館の中に老人会の事務局があって、高齢者事業を行う際は連携しやすくなっておりました。この大きなフロアの展示場所、それから改築で展示スペースを広げて、自主活動での写真展示等の発表の場になっていました。

以上で私からの説明を終わらせていただきますが、視察に行かれました委員さんから補足説明等があればお願いします。

村井町長	はい、今、教育長より視察地の説明等がありましたが、他の委員さんも視察に行かれていますので、視察で感じられたことがあればお聞かせ願いたいと思います。 本所委員さん、何かありますでしょうか。
本所教育委員	教育長の説明でほとんど説明されたのですが、馬淵コミュニティセンターが規模的にも豊浦と、ただ立地的な条件は違うので一概に全部がとは言えないのだけれども、学校がすぐ隣だとか、学校や商業施設とを屋根で繋いでいる工夫があり、これが新しい感覚なのかなと感じました。それから消防署、これも詰所になっていて、図書館利用者だけでなく、絶えず人が、いろんな形で利用できている。そんな印象を受けました。最初に行った図書館は、規模が大きすぎるのだけれども、ものすごい数の図書があり、隙間なく本が並んでいて、かなりの数の貸し出しがあるんだと思いました。ここもすごく、図書館を利用される方以外が利用できるスペースが広くあり、個室ではないけど、開放的な感じで、個別に分けられていて、談話や本を読んでいた。
村井町長	この正面からの写真を見ると右と左にそれぞれ分かれているの。
佐々木教育長	それはですね、「図書館」と「びんてまり館」になっております。
村井町長	それぞれ補助メニューは違う。
佐々木教育長	「びんてまり館」の方は、補助金等について聞いてないのですが、違うと思います。「図書館」と「びんてまり館」、中間に共通スペースで分けていると思います。本当は、もう少し小さな図書館に視察に行きたかったのですが、視察予定の図書館がいつもは月曜日が休館日なのですが、月末の木曜も休館日でしたので、近くの有名な図書館ということで、愛知川図書館に行っております。
本所教育委員	馬淵は、規模的にはいいんじゃないかな。
佐々木教育長	馬淵は、地域の住民が3,500人で避難者想定が350人なので、豊浦の規模ですかね。この地区は、近くに川があり、水害を想定しています。
村井町長	当然、和室が必要だということで作られている。
佐々木教育長	そうですね。ここには、1階と2階に2室ずつ和室がありました。
本所教育委員	あと、下屋というのかな、あれもいろいろなことに利用できて工夫されていた。車で来ても、雨に当たらない、物の出し入れにおいても、フラットになっていて出し入れが簡単に出来るように工夫されていた。
村井町長	山下委員、何かありますか。

<p>山下教育委員</p>	<p>3つの施設それぞれ特徴がありまして、1番目の図書館は、小さな町ながら、専門的な本もたくさん集めてる。今、ネットなどで調べられるかもしれませんが、そういう本に特化することで、住む人達が小さいころから本に親しむことで、そこから情報収集をしているそういった文化が出来上がっている。また、職員の方も専門家ということで、そこにある本の補足や調べ方でも精通しているので、専門的なことが調べられる。またその中で、情報を収集するという目的とそこに地域の例えば企業の情報ですとか、その日の日常の情報、新聞とかチラシですとか、町内のいろいろなものが発信されているので、遠くからでも、毎日のように利用されている方々がいるそうです。そこは専門的なものとして、私的な施設として勉強になりました。2つ目のコミュニティのところは、本当に安全について考えられている施設の中で、先ほどから説明があったように、使い勝手の良さとかというのは考えられて、シンプルながらも、何かあったときには活用しやすいような形に見えたので、うちの規模に合っているようなお金もあまりかからないで活用できる施設という印象でした。3番目のところは、改修ということで、金額的には、約2億くらいだったと記憶していますが、そこでは、町ぐるみで文化、習い事、集まり事のやれるような人が集えるような、小さな集まり、趣味などをいろいろ多彩に揃えて、皆が出入りしやすい形に改修されていましたし、その職員の方も、年齢がいった方が職員であったりして、出来ることは、いくつになっても町の仕事に携わっていたような気がしました。それと先ほど説明の中にもあった消防施設と繋ぐことで、人の集まる人が集まることで、いろんなものも発信できるのかな。3つそれぞれの特徴があったので、そのいいところを吸収しながら豊浦町でやっていこうかと思いました。</p>
<p>村井町長</p>	<p>今日は、荒井委員長さんが欠席ですので、一緒に随行で行った日下係長からもお願いします</p>
<p>日下学校教育係長</p>	<p>2番目のところのコミュニティセンターの軒下のところが、それを利用して、テントを張らずにイベントを開催してと聞きましたので、豊浦町でも検討できるのかなと、雨天時でもイベントが開催できる会場があればいいなと思いました。最初のところでは、雑誌とかもかなり購入していて、規模も大きいのですが、これだけ購入すれば、一般の人が雑誌を購入しなくていいのではないかと思いました。3つ目の施設は、商業施設と隣接してるので、気軽に公民館に寄って、買い物をしていく住民の方々がいましたので、うちの町にも商業施設と隣接できるような場所があれば高齢者の買い物対策にもなるのかなと考えま</p>

	した。以上です。
村井町長	相川委員さん、今、いろいろ聞いていて何か意見等ありますか。
相川教育委員	やっぱり2番目の馬淵コミュニティセンターが、震災などがあった時に、私も実際中央公民館に避難したこともありましたが、やっぱり和室の部屋が少ないということで、ここの大ホールで休んだりしたのですが、床が冷たくて、高齢の方もいましたので、もっと和室があったらと感じていました。
村井町長	みなさんの相対的な意見として、3か所見て来たけれども、この中では馬淵コミュニティセンターのような地域住民の方々が、コミュニティ形成が図られる施設がいいのではないかと、今後の方向としては、予算の確保という問題もあり、予算が確保できやすいのは、やはり防災施設、その機能を前面的に出していくことが、獲得しやすい。 まず基本的には、防災拠点を中心として、交流施設、コミュニティ形成が図られて緊急避難時には、和室が必要となってきますので、そういう基本的な考え方で検討していくということよろしいでしょうかね。
堀社会教育係長	図書館機能についても検討をお願いします。
村井町長	もちろん図書館についても併せて検討していきます。ただ図書館となると大きなイメージとなるけど。
堀社会教育係長	1番いいなと思うのは、こういう施設の中に事務所の横に隣接する図書室を設置することで、人件費等の節減もできるので、もし可能であるならば、その方がいいのかなと思います。
村井町長	管理や限られたスペースなので。
堀社会教育係長	総二階にすればある程度の面積はとれると思います。今の建物だと使えていない部分等があると思います。資料の4ページにあるように、敷地自体が平坦な敷地ではないので、なかなかこの敷地を有効に利用するのは難しいとは思いますが。
村井町長	ここは、耐震改修を実施しても使い勝手が悪いので建て替えしかないのかなとは思っているけど、建て替えの時期については、早い方がいいとは思いますが、その財源を見ながら検討していくということで、よろしいでしょうか。
二ツ森社会教育主査	防災の観点から考えると、身障者用トイレがないことや1階からのエレベーター等がないので、足の不自由な方には不便だと思いますが、公民館の利用者から不便だというご意見などは伺っていません。
山下教育委員	防災施設にしろ、コミュニティの場にしろ、駐車場の確保等も必要になってくるのでは。



堀社会教育係長	限られた敷地ですので、現在も河川用地や小学校グラウンド等を利用するようになるのでは。
村井町長	<p>いろいろご意見等がありました。他にございませんか。また機会があれば、いろいろとご意見をお願いいたします。</p> <p>次に、その他についてお願いします。</p>
佐々木教育長	<p>せっかくの機会ですので、資料の平成 28 年度の全国学力状況調査の結果がでましたので報告します。</p> <p>まずは小学校から見てください。今年度につきましては、3 校 25 名が参加しております。教科については、国語の基礎的な力を見る国語 A と活用の力を見る国語 B、そして算数の基礎的な力を見る算数 A と活用の力を見る算数 B であります。教科全体の状況を示したレーダーチャートをご覧ください。豊浦町状況は赤線で、全国が黒線、全道が青線となっております。この数値は全国を 100 としており、全国の黒線の外側にあれば、全国を上回っている状況です。それぞれの教科ごとについては、右側の平均正答率の全国との差の推移で読み取ることができます。この表は平成 19 年度からの推移も表しております。今年度で言えば、国語 A は、全国よりやや低く、国語 B は、全国との比較で著しく低い、算数 A は、全国を上回っておりますが、算数 B がやや低くなっております。教科の中では、国語 A の読むこと、算数 A の量と測定、図形、算数 B の数と計算が全国を上回っています。これらの要因としては、各学校における授業の改善や町独自で学習支援や補助教員の配置により、個人に合わせたきめ細やかな指導が行われていると考えられます。この調査では、学力以外で児童や学校への質問調査等も行われていまして、授業の中で目標が示されていたと感じる児童が全国や全道を上回っていました。また学校への質問でも、授業の中で目標を示す活動を計画的に取り入れたという学校が全国や全道を上回っていた。この授業の中で目標を示すということは、学習内容の定着を図るために有効なものとして近年積極的にこの方法が取り入れられています。本町では、どの学校も授業の初めに目標を示してから、今日のねらいを示してから授業に入ることが定着しています。</p> <p>続いて中学校です。中学校については、1 校 24 名が参加いたしました。教科については、小学校と同じく、国語 A と国語 B、そして数学 A と数学 B の 4 教科です。教科全体の状況を示したレーダーチャートについては、小学校と同じように豊浦町が赤線、全国が黒線、全道は青線となっております。教科ごとについても、右側の表を見ていただければ、平成 19 年からの推移がわかります。今年度の状況では、国語 A が全国よりやや低く、国語 B が全国よりかなり低くなっていま</p>

	<p>す。数学 A は、全国を上回り、やや高くなっており、数学 B は全国と同じとなっています。教科の中では、国語 A の話すこと聞くこと、数学 A ではすべての領域、数学 B では関数で全国を上回っています。これらの要因としては、小学校と同じように町独自の学習支援員、補助教員の配置が考えられると思います。また学校独自の取り組みとして、学習五原則を設定して、授業の中で学習の目標を示す活動を計画的に取り入れて、そのことが効果となって表れていると考えられます。中学校においても、生徒や学校へ質問調査を行っていて、やはり授業の中で目標が示されていた。また学校でも、授業の中で目標を計画的に取り入れた。また町と共通した学力向上対策では、町独自の学習支援員、補助教員の配置、学習五原則の制定、教職員による学習規律の徹底を行っている。それからなんといっても、小中一貫教育の推進によって、確かな学力と学習習慣性の育成を行っていた。確かに右の表を見れば、上がっているのかと言われますが、年度間の差がありますが、全体としての傾向としては当初の平成 19 年度と比べ、数値は格段に上がり、全国もしくは全国を上回るような結果となっております。これは、今後も継続して続けていきたいと考えています。</p> <p>以上であります。ご質問等ありますでしょうか。</p>
村井町長	書くことが低くなっているんだ。
佐々木教育長	昔のように書くことの宿題なども少なく、あまりそういうことに関して時間が少ない状況です。
村井町長	書くことだけでもだいぶ違うと思うが。全国平均にも近くなると思うが。全国平均にも近くなると思うが。B の図形とか。
佐々木教育長	小中共通して、図形の応用は弱くて、なので豊浦町の子どもたちの一つの弱さという中で、図形というのは出てくるのだと思います。この辺は小学校中学校連携しているので、小学校から図形の学習に力を入れていかなければならないと思います。そういう意味での調査なので、今子どもたちがどうなっているのか、次の調査までに取り組む課題として考えることとなります。
村井町長	他になれば、会議を終了したいと思いますが、よろしいですか。
竹林生涯学習課長	以上で、平成 28 年度の総合教育会議を終了いたします。